公益財団法人

AFS Intercultural Programs 支部便り

No. 38

2020年４月１日発行

編集・発行　公益財団法人ＡＦＳ日本協会岩手支部
支　部　長　　瀧　　本　　忍

事務局　〒020－0045
岩手県盛岡市盛岡駅西通一丁目7番1号
県民活動交流センター　受付レターケース番号12
（公財）　AFS 日本協会　岩手支部
ＴＥＬ　070－1501－3423
メール：info-iwate@afs.or.jp
https://www3.afs.or.jp/tohoku/iwate/

印　刷　㈲九戸印刷（久慈市）

AFS いわて

あなたに合った学びの旅へ・・・

公益財団法人ＡＦＳ日本協会岩手支部長　瀧　本　　忍

2020 年､春の岩手支部の留学生は､オーストラリアの Mawie(盛岡第一高校）と、スイスの Alexandra（一関第一高校）の予定でしたが、新型コロナウイルス予防対策のため、春の受け入れ生の延期が決定されました。大変ご迷惑をおかけしているところです。また、67 期派遣生は５名。関係各所に厚く御礼申し上げます。

私が、岩手支部の支部長を務めて５年目、任期最後の年となりました。振り返ってみれば、娘の留学から始まり、私のＡＦＳボランティア体験そのものも、ＡＦＳプログラムになっていて、学びの旅を体験させてもらっています。「（ＡＦＳ）国際ボランティア体験プログラム」とでもいいましょうか。

異文化交流をしたことのある人は、異文化に接することで、自分たちの住む日本の良さが分かってきます。一例ですが、ドイツからの留学生のネレは、日本のコンビニに初めて入ったとき、「すごい、ここはいろいろあって（特にお菓子）楽しいところ！はじめて入った！ドイツにはない。」とテンションを上げ、目を輝かせていました。コンビニは、私たち日本人にとって「当たり前の日常」のお店だけど、他国から見ると、とても有り難い場所のようです。

逆に、異文化交流することで、私たちの住む日本の問題も見えてきます。これも一例ですが、日本人の忙しさです。日本の高校生をとっても、部活動を遅くまでやったり、塾に通ったりして、自分の気持ちとゆっくり向き合ったり、家族を思いやったりする時間が少なすぎます。我が家に来た留学生、（午後のお昼寝タイム＝シエスタのある）アルゼンチンのジュリエタは、高校生活の忙しさに体がついていけず，体調を崩してしまい、途中、部活動を断念しました。（その分、地域の秋祭りでさんさ踊りに参加できました。）

私がボランティア活動をしていく中で、日本の良さと問題、自分の良さと課題に気づき、考えることができました。異文化交流がもたらす効果は、そのような凸々の日本社会や世界の問題を考えるきっかけを与えてくれることです。また、自分の足りないところにも気付かせてくれます。

昨今、「多文化共生」という言葉をよく聞きます。いろいろな文化が共生する社会へと進む時代、当然ながら前例のない様々な問題や課題が生じます。ＡＦＳボランティア活動を通して、私自身が多文化共生のための知恵や資質が磨かれてきていると感じます。若き高校生が留学体験をすると、グローバル社会で生きていくための知恵や資質を磨きます。ましてや、柔軟な思考ができる高校生は、大人よりも急速にスポンジが水を吸収するように、心に浸透し、感性を磨き、これからの社会に生きる資質と能力を備えた大人へと成長していきます。

ＡＦＳ異文化交流の方法は、留学体験、ホストファミリー・ホストスクールを引き受ける、支部のボランティア活動に参加する、支部のイベントのキャンプなどに参加する、寄付をするなど様々です。自分に合ったやり方で、是非チャレンジしてみてください。

私は小学校の時の卒業文集に、「将来、小学校の先生か、アフリカでお医者様の居ない地域の人たちを助ける医者になりたい。」と夢を書きました。子どもの頃描いた夢は、AFS の理念とよく似ています。行きついた私のボランティアがＡＦＳだったことも、納得できました。

皆さんにも、何かぴったりの「学びの旅」があるに違いありません。今から探してみてください。これからの人生で「今」が一番若いのです。若い行動力が発揮できる時…それは、「今」です！

【AFS 岩手支部 - #AFSeffect で繋がろう】 https://www3.afs.or.jp/tohoku/iwate/

【留学体験記】（帰国生）

65期フランス派遣　[redacted]（不来方高校）

10ヶ月という長期の留学を経験できたこと、とても有り難いです。振り返ると、感じていたよりも充実した留学生活を送れていたと思います。ホストシスターとは馬が合わず悩むこともありましたが、他のファミリーには、私ごとの長期な旅行の計画を共に練ってくれたり、様々な行事に参加させていただいたり、大事にしてもらったと感じます。10ヶ月の海外での生活は、観光とは異なり、自分の新しい生活が始まったようでした。最初は異文化を理解したつもりでも、フランス人と関わっているうちに納得できないことがいくつもありました。様々な経験を通して、留学の前と後では随分と海外のことを交えて思考するようになりました。春からは、大学でまたフランス語を学び直し、その後の自分の未来に生かしていきたいと考えています。そして、私の留学は様々な出会いと周りの人々の支えによって成し遂げられたと思います。海外からの同じ支部の留学生や学校の友達とは未だ仲良くさせてもらっていて、現地で会った日本人ともまだ結びつきがあります。そして何より周りのフランス人や、AFSサポーターの方々にはとても優しくしてもらいました。ありがとうございました。

＊＊＊

65期フランス派遣　[redacted]（不来方高校）

去年の7月にフランスでの10カ月間の留学を終えて帰国しました。現地で通った学校ではとても楽しい時間を過ごしました。授業中は友達のノートを見せてもらってなんとか理解していました。また、フランス語の授業もあり、一日中映画を観たり、学校を出て小旅行に行ったりしました。クラスには14人の中東やアフリカ北部から移住してきた高校生がいました。言語や背景や年齢はバラバラですが、皆活気にあふれていて大好きで、このクラスに行くことが待ちきれませんでした。学校のクラブでボルダリングに初めて挑戦し、水曜日の夜は市の空手道場に行きました。

私のホストファミリーは私を受け入れることをとても早い時期に選んでくれて、温かく歓迎してくれました。冬にアルプスで何日もスキーをしました。木造のゲストハウスのようなところに皆で泊り、初めて会った人と夜遅くまで話をしたりゲームをしたりしました。大晦日はそこでパーティーをしました。書ききれないほどのことをホストファミリーと一緒にしました。

帰国してからもう5か月が経ち、今思い返すと夢のように短い時間だったと感じます。留学を支えてくれた人全員にとても感謝しています。留学での経験が、今のフランス語やそのほかの勉強のモチベーションになっていると思います。

＊＊＊

65期ハンガリー派遣　[redacted]（盛岡白百合学園）

2年前の8月24日､私は8人の仲間と共に「なりたい大人」を見つける旅に出かけました。帰国して約8か月が経った今も、ときどき無意識に口にしてしまうハンガリー語が、ふと留学生活を思い出させます。

異文化の中で1年を過ごし、そこでの経験から私は将来の目標を定めることができました。そのきっかけとなった出来事の1つは、難民やホームレスとの出会いです。日本ではあまり見かけないからこそ、自国に強制送還されることを恐れ震えていたり、いつもボロボロの服を着てお金を拾ったりしている彼らの姿は、私に大きな衝撃を与えました。そこで人々の経済格差や平和ではない社会を実感し、紛争地域の復興支援や発展途上国の開発支援について学びたいと考えるようになった私は、今年の冬に控えている大学受験に向けて勉学に励んでいます。

思い返せば、留学の1年間は18年間生きてきた中で、1番本気で自分と向き合った年でした。無論、楽しいことばかりではなく、悩みが尽きず泣いたことも、何をやっても上手くいかず自分に自信を失くしたこともありましたが、それらはすべて私の糧となりました。留学中たくさんの人に支えてもらった分、この経験を活かして今度は私が留学生を支えられるような存在になっていきたいです。

このような素敵な体験をさせてくれた家族、いつも近くでサポートしてくださったAFSボランティアの方々には大変感謝しております。ありがとうございました。

【留学体験記】（帰国生）

65期ポルトガル派遣 [redacted]（八戸聖ウルスラ学院）

私は2018年９月から約10か月の間ポルトガルで長期留学を体験しました。この長いようで短かった１０か月間で私は多くの経験をしました。

ポルトガルは、日本からユーラシア大陸をまたぎ一番西に位置する小さなヨーロッパの国です。私がこの国への留学を決めた理由は一つ、「ポルトガルって何があるのだろう？」。このように自分の留学先について何も知らずに日本を飛び立った私が一番初めに驚いたことは現地の人々の温かさです。遠く離れた国から来た留学生の私をホストファミリーや学校の友達を含め多くの人が優しく受け入れてくれました。この優しさに気が付くのに少々時間がかかってしまいましたが、これを学ぶことで私はまた少し成長できたのではないかと感じています。

そして何よりの異文化体験といえばやはり「食文化」。日本ではもちろん食べることのない食材、例えばカタツムリなんかに出会いました。最初は抵抗があったものの意外と美味しく、そして何よりこれを現地の人と「おいしいなぁ」などと言いながら食べている時、私は本当の意味で異文化を感じることができました。

このように私は数えきれないほど経験をし、成長して日本に帰ってきました。これは家族、友人、AFS関係者の方々といった多くの方々のおかげです。本当にありがとうございました。

＊＊

66期コスタリカ派遣 [redacted]（八戸聖ウルスラ学院）

帰国して約一ヶ月が過ぎました。日本での日々は毎日が忙しく、一日一日の時間の流れがとても早く感じます。平日は朝早くに家を出て学校へ行き、夜遅くに帰宅。週末は課外や部活動、そして課題などに追われています。あまりにも忙しすぎる日々に息苦しさを感じ、正直すでにコスタリカでの生活が恋しくなっている自分がいます。

コスタリカの学校は始業が朝７時と早めですが、時間通りに来る人などほとんどいません。一時間過ぎてから教室へ入って来ても先生は何も言わず、生徒も堂々と入ってきます。授業中は真面目に取り組んでいる生徒は誰１人として見かけることはありませんでした。休み時間は学校内を歩き回り、すれ違った友人達とグータッチを交わします。放課後は日本のように部活動などなく、自分の好きな事をして過ごします。週末も同様です。こんな日々が僕にとって楽園にいるような気分でした。コスタリカの人々は本当にみんな明るくフレンドリーな人ばかりで、日本から来た僕に興味を持ってくれて、すぐに友達ができました。また、彼らは自分の国のことを誇らしく思っていて、世界で一番幸せな国だという理由がこの一年間で納得できました。

僕は留学に行く前、いくつかの目標を立てました。その中のひとつである語学習得は一番苦労しました。最初の頃は、皆が何を言っているのか全く理解できず、自分が伝えたいことも言えずと、コミュニケーションが中々取れずにいました。しかし、自分が好きなサッカーや日本の文化を共有し合ったりしていくうちに少しずつですが、会話が続くようになっていきました。こうなってくると嬉しくなり、もっとコミュニケーションを広げたいと思うようにもなりました。

また、この留学は僕に様々な経験をもたらしてくれ、自分の成長に繋げさせてくれました。一番の自分の中での変化は、様々なことに対して感謝の気持ちを持つようになったということです。やはりコスタリカでの生活は日本と比べると慣れないことばかりで、不便に感じることがよくありました。しかし、それを乗り越えた今、当たり前のように感じていた日本での生活は世界へ出てみると当たり前ではないと再認識することができました。

留学生活を終えた今、自分にとってできることは、この体験談をいろんな人たちに伝えていくことだと思います。これからはこの経験を生かし、様々なことにチャレンジしていきたいと思います。

受入生から皆さんへ

たくさんの思い出をありがとう！

秋架け橋プログラム受入生
不来方高校・モンゴル

エッサ

夢のように思い出

岩手に来てもう7ヶ月をたったなんて信じられません。
夢のように7ヶ月たった。岩のアトモスフィアはモンゴルよりも異なります。
岩手は寒ですが美しくて、すばらしいところです。
私は大好きなホストファミリーと仙北町に住んでいます。私のホストファミリーは私に
家族の本当の感じを見せてあげました。お母さんは毎日おいしいごはんを作って、お父さんが
面白い話をして、ななこちゃんもいつも話してくれて たくさんの思い出を作りました。ホストファミリーに
いつもかんしゃしています君たちを決して忘れないです。とても大好きです。あまり言わなかったですけど
君たちはいつも私のかぞくです。みんなありがとうって言いたいです。
みんなとすごした時間はこれからもずっとたいせつな思い出です。
私のホストスクールはやはば不来方高校です。たくさん友達できました。みんなやさしいし
いつも面白いことしゃべって とても楽しかった。みんな私に日本語教えて 私もえい語教えました。
先生たちもとてもしんせつで面白いです。私の部活はバレーです。バレー大好きですから
部活の人たちといつも楽しかった。
AFS岩手のみんなにも本当にありがとうございました。いろんな楽しいことをAFSの友達といっしょに
しました。りんごがり、ぶどうがりをしたり、スピーチコンテストにさんかしたりとか
いろんなことをやりました。この思い出をぜったい忘れないです。
今、私アジアかけはしプロジェクトの意味を良くわかりました。また日本に来ますから、みんなと会います。
みんなさんと出会ってもことは神にかんしゃしています。私をわすれないで
またね！すぐに日本語を学んだ子供として私を思い出してね♡

秋セメスター受入生
水沢高校・アメリカ

ジュリア

またいつか会いましょう！

日本に留学して

ジュリア。

私は日本に来て多くの素晴らしい経験をしましたが、難しい経験もありました。ここでの滞在の中で最も難しい部分は学校に行くことでした。学校には多くの文化的なルールがあり、私にとっては新しい概念でした。たとえば、スープをゴミ箱に捨ててはいけないことや、学校に入るときは中くつにはきかえなければならないことです。何か間違ったことをしたとき、周りの人が私を正してくれると助かりました。しばらくして、クラスメートと話したり、ランチを食べたりする自信をつけることができました。この数ヶ月間に形成された多くの素晴らしい思い出と関係を常に大切にします。AFSのおかげで、順応し、より社交的になり私の快適ゾーンから抜け出すことができました。

ありがとうございました。

皆さんお元気で。